

# 平成31年度 年間指導計画

教科	公民	対象クラス	必修	単位数	
科目	倫理(選択)	3学年(選択)	○ 必修選択		2単位
使用教科書 使用教材	高等学校 新倫理 新訂版(清水書院)				
評価の 観点・方法	①定期考査 ②出席状況 ③授業態度 ④ノート・レポートの提出状況 ①～④を総合的に判断し評価する。				

学期	月	単元	具体的指導目標	指導内容	予定時数
1 学期	4	「現代に生きる自己の課題」 1. 人間とは何か 2. 青年期の課題と自己形成	・青年期の意義と自己形成の課題について考察させ、青年としての生き方を自覚する。	・「青年期」が人生においてどんな意味をもつか理解させる。	4
	5	〈人間としての自覚と生き方〉 1. 人間における哲学 (1) 神話から哲学 (2) 自然哲学	古代ギリシアにおける人間の生き方やあり方について、先哲が考え実践したことが普遍的な意義をもつものとして学ぶ。	哲学を生み出した古代ギリシャ人の精神活動や世界観を理解させる。	6
	6	2. ソクラテス 真の知への道 3. プラトン 理想主義のあり方	基本的な歴史的知識を認識し、ソクラテスの生涯と思想を通してその意味について考える。プラトンの理想主義を学ぶ。	ソクラテスの思想を無知の知や魂への配慮を中心に理解させる。プラトンの四元徳と理想国家について理解させる。	8
	7	4. アリストテレス 現実主義的なあり方	ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想の違いをおさえ、用語を理解させる。	アリストテレスの思想を人間の徳や幸福という観点から理解させる。《期末考査》	2
	8				
2 学期	9	5. ヘレニズムの思想 (1) ポリスの解体 (2) エピクロス派 (3) ストア派	章のまとめとして、ギリシア思想の特色を理性の尊重、調和と秩序を中心に理解させ、現代社会に与えた影響を考えさせる。	現代社会とヘレニズム期における世界市民主義の共通点、相違点を考えさせる。	6
	10	〈人生におけ宗教〉 1. キリスト教 (1) ユダヤ教 パレスチナとイスラエルの歴史	キリスト教の母胎となったユダヤ教について、その一神教的な特色を理解する。	ユダヤ教が、古代イスラエルの歴史的、自然的条件のもとに生まれて発展した民族宗教であることを理解する。	8
	11	2. イエスの思想とキリスト教 (1) 律法、神への愛と隣人愛 (2) 世界宗教への展開 3. イスラーム (1) イスラームの成立、教え	イエスの説く律法の内面化、神への愛と隣人愛の教えを中心に理解させる。イスラームの成立、宗教的な義務、戒律をなど特徴を理解させる。	世界宗教としてのキリスト教を理解し、キリスト教が人間にとって一つの普遍的な教えであることを学ぶ。イスラームについて、ユダヤ教とキリスト教とのサイト共通点を理解する。	6
	12	4. 仏教 (1) パラモン教 (2) 仏陀の思想	古代インド社会の思想の特徴を理解させる。ゴータマの生涯を概観し、思想の特徴を理解させる。	古代インド社会の思想の特徴について理解させる。ゴータマ・シッタダの生涯を概観し、悟りの内容を理解する。ブッダの入滅後の大乘仏教運動の特徴を理解する。《期末考査》	2
3 学期	1	〈現代の諸課題と倫理〉 1. 生命科学と倫理 2. 文化・宗教の多様性と国際理解	異なる文化・宗教の人々が理解しあい、隣人として生きるために必要なことを考えさせる。	これからの国際社会のなかで、一人一人ができること、また日本ができることについて話し合い、自分の意見をまとめる。《卒業考査》	6
	2				
	3				